

つら

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 685

11
November 2013

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



ズワイガニ解禁 (取材協力: JF但馬所属 松栄丸)

ズワイガニ漁 解禁!!

兵庫県水産議員連盟とJF組合長懇談会

《今月の海上安全標語》 ~ぜひ覚えましょう!! ~

警察は110番。消防・救急は119番。では、海のもしもは?

おぼえてる? 海のもしもは ^{ぴんぴんぱー}118番 では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ようこそ」とは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるときにの号令として使われる。

90年の歴史

兵庫県立水産技術センター 所長 **山村 雅雄**



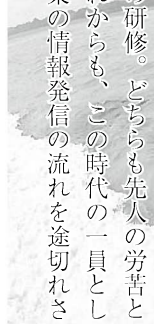
水産技術センターの前身である「水産試験場」は、大正13年4月に県庁内に仮事務所を置き、1年をかけて施設の新築整備を行い、大正14年4月から明石市船町で業務を開始しました。本年は、県庁内に事務所を置いてから、ちょうど90年に当たる年です。

しかし、大正13年に整備した庁舎は、昭和20年7月の空襲により焼失、戦後間もない昭和23年4月に同じ場所に再建、その後、昭和43年4月の明石市中崎への移転を経て、平成4年4月に4代目の庁舎が、明石市二見町南二見に整備され、現在に至っています。

日本は四方を海に囲まれ、水産先進国として多くの試験研究が行われてきましたが、当水産技術センターも微力ながら本県の水産業の振興に尽力してきました。特に、沿岸・沖合部の定点観測は、水産の試験研究の基本データとして現在に至るまで蓄積・活用し続けていますが、個々の試験研究テーマでも、昭和初期から戦前期までの「新規漁業の開発」や「漁具の改良」、戦後の食糧難の時代では「新規漁場開拓による増産」や「食料としての加工・保存」等時代を反映するものとなっていました。また、高度経済成長の時代に入り、臨海部の工業化・都市化が進む中、それに呼応するように試験研究のテーマとして「漁場環境の監視」や「つくり育てる漁業を支える増養殖の技術開発」に取り組むようになり、さらに「資源培養型水産業の推進」や「豊かな海の再生」など、今後も時代により変化し続けていくことになると思います。

また、現在の水産技術センターの整備に合わせ漁業研修館も整備され、毎年5、8千人の小学生が勉強にやっています。研修館整備後すでに20年を超えていますので、延べ10万人を超える小学生が、この二見の地で栽培漁業や海・魚について学んで帰ったことになりました。

これまでの90年間の試験研究、子供たちへの20年間の研修。どちらも先人の労苦と努力なしには継続してこれなかったと思います。これからも、この時代の一員として、漁業者の目線を大切にしたい試験研究、海・魚・漁業の情報発信の流れを途切れさせることなく、次世代に繋いでいきたいと思えます。



CONTENTS

No.685 November. 2013

- 2 ようこそ
- 3 JF洲本・JF炬口合併仮契約調印式
松葉ガニ漁 解禁!!
- 4 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
海難事故をなくそう!
- 5 第33回 全国豊かな海づくり大会-くまもと
- 6 淡路市で「かいぼり」はじまる!
- 7 淡路市立富島小学校で「おさかな教室」開催
- 8 2つの大学イベントで兵庫県産水産物をPR!
- 9 「兵庫県民交流団」ワシントン州を訪問
- 10 大輪田塾だより
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う
「全国ご当地バーガーコンテスト」にニギスバーガーで出展



表紙の言葉

「ズワイガニ漁解禁」(香美町)

但馬の冬の味覚、ズワイガニ。

今年も11月6日午前0時にズワイガニ漁が解禁となり、翌朝にはカニを買い求める仲買人たちが浜は活気に満ち溢れました。

水揚げされたズワイガニは京阪神地区へ出荷されるほかに、但馬地区の観光資源として、地域経済の重要な役割を担っています。

「今年はどうな漁期になるか?」

漁業関係者のみならず、カニを待つ人々が、皆、今後の漁模様に期待を寄せています。

REPORT

各団体からの報告

開会にあたり、両JFを代表して西岡組合長は「漁業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、これに対応すべく合併による経営基盤の強化を図るため、協議を重ね、本日の調印式を迎えることができた。若い世代が安心して漁業に取り組めるようにしなければならぬ。今後は洲本市東海岸の漁協の一本化を目指し尽力したい」と挨拶されました。

両組合長並びに2名の立会人による調印がなされた後、竹内市長と山

席し、洲本市 竹内 通弘市長、JF 兵庫漁連 山田 隆義会長の立会いのもと、合併仮契約書に調印されました。



11月6日(水) 洲本市において、JF洲本・JF炬口の合併仮契約調印式が執り行われました。調印式には、JF洲本の炬口 政胤組合長、JF炬口の西岡 勇組合長をはじめ、両JFの役員、県、市ならびに系統団体など約30名が出席しました。

JF洲本・JF炬口合併仮契約調印式

JF兵庫漁連

田会長より、それぞれ新組合への期待を含めた祝辞が述べられ、調印式は滞りなく終了しました。

調印式終了後には、同市内のホテルに場所を移し、祝賀会が開催されました。炬口組合長の主催者挨拶に引き続き、県洲本農林水産振興事務所 藤澤 崇夫所長の祝辞の後、洲本市農林水産部 山本部長の発声による乾杯で始まった祝賀会は、終始和やかなムードでした。

今後、両組合は11月17日までに総会を開催する予定で、合併承認などの手続きを経て、来年1月1日には「洲本炬口漁業協同組合」として新たなスタートを切ることとなります。



松葉ガニ解禁!!

~1匹25万円の過去最高値も~

JF兵庫漁連 但馬支所

日本海の冬の味覚、ズワイガニ(松葉ガニ)漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日(水)に一齐に解禁となりました。日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船51隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一齐に網を投入しました。

初競りは同日午後から行われ、浜坂漁港ではこれまでの20万円を上回る、1匹25万円の最高値を記録し、柴山港では「松葉ガニ初せりまつり」が開催され、地元住民ら約3,000人がセコガニの味噌汁を味わうなど、各浜は初水揚げで活気に溢れました。



最高値更新となった浜坂漁港

大勢に人が詰めかけた初せりに湧く香住漁港



初日の但馬地区全体での水揚げ量は、オスガニ、メスガニともに昨年を下回る前年比約89%となり、水揚金額はやや品薄のため全体的に高値で取引され、前年比99%の約1億2千万円となりました。

この漁の操業は3月20日まで行われますが、資源保護の取り組みとして今漁期からメスガニ(セコガニ)は12月31日まで、若マツバガニ(ミスガニ)は1月20日から2月28日までと操業期間を短縮しています。

いよいよ解禁となりました。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。

兵庫県水産振興議員連盟と JF組合長懇談会

JF兵庫漁連 指導部



9月30日(月)、ラッセホール(神戸市)において、『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』が、JF組合長と県会議員、関係者ら約100名が参加のもと開催されました。

本懇談会は、燃油価格の高騰、漁業後継者の減少、魚価の低迷など漁業者だけでは解決できない課題が山積する

中、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とすることを目的として毎年開催されており、本年度で7回目となります。

はじめに「TTP交渉の動向と対応について」として、JF全漁連 大森 敏弘常務より講演がありました。TTPを巡る情勢では「米国から過剰漁獲を招くとして、漁業補助金が問題視されているが、我が国では、漁業補助金は資源管理を進める上で、必要不可欠であると主張している」こと等について説明され、併せて、漁村の活性化や力強い水産業実現のための支援策である「浜の活力再生プラン」等を中心とした平成26年度水産庁概算要求予算にも触れられました。

続いて「攻めの漁業について」と題して兵庫県水産課 高木 英男副課長より話題提供がなされました。高木副課長は、漁業の活力が低下している現状を踏まえた上で、県下各地で取り組まれている水産物直売やJF兵庫漁連がコアブ神戸やイオンリテールと提携して行っている地産地消の取組等を紹介し、「今後の漁業には魚を売る努力(IIプロモーション)が今まで以上に必要である。漁業には、成長産業としてまだまだ伸びしろがあるの努力を続けることが大事ではないか」と提案されました。最後に、9月24日(火)に県議会へ請願書を提出した「新瀬戸内海再生法」制定に向けた取組について報告があり懇談会は閉会となりました。

終了後は、県議の方々とJF組合長との情報交換会となり、当日の講演テーマをはじめとして地域が抱える問題等についても活発に意見交換がなされ、盛会裡のうちに閉会となりました。



海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

ライフジャケット非着用者の死亡率は、着用者の死亡率と比べ「2倍以上」高くなっています。



ハイブリッド型ライフジャケット(固型式・膨張式)
モデル: 兵庫県内海漁船保険組合
神田 ももこさん

～安全をサポート～

浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



浮力は十分あり!

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

第33回 全国豊かな海づくり大会ーくまもと

テーマは「育もう生命(いのち)がやく故郷(ふるさと)の海」



天皇・皇后両陛下ご臨席のもと開催されました(写真提供：JF全漁連)

10月26日(土)、27日(日)の両日、「第33回全国豊かな海づくり大会ーくまもと」が熊本県内で開催され、同大会に併せた物産販売、企画展示、体験コーナーなどの関連行事も含め、約7万人の来場がありました。

このあと、功績団体表彰に続

式典は27日に、熊本市の県立劇場で行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者ら約1,500人が出席しました。幻想的な山鹿灯笼踊りのステージで幕を開けたのち、伊吹文明大会会長(衆院議長)は「かつて水俣湾は水銀に汚染され、多くの人の健康が損なわれた。二度とこのような悲劇を引き起こしてはならない。水俣の経験を教訓に、海や河川的环境保全や水産資源保護に努力していきたい」と挨拶され、蒲島郁夫熊本県知事は「水俣病が発生した水俣湾は清らかで豊かな姿を取り戻した。大会を通じて全国の皆様に再生した水俣の海をご覧いただきたい」と歓迎の言葉を述べられました。

き、両陛下から漁業後継者へのクルマエビ、ノリなどのお手渡しがあったほか、有明海地域、八代海地域、天草地域の漁業後継者夫妻と小学生から「くまもと海づくりメッセージ」が発信されました。大会決議採択では、岸宏大会推進委員長(JF全漁連会長)が



両陛下によるご放流の様子(写真提供：JF全漁連)

決議文を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に蒲島熊本県知事から次期開催県の荒井正吾奈良県知事へ大会旗が引き継がれ終了しました。
海上歓迎・放流行事は、大会史上はじめて、熊本港(熊本市)、埋立地「エコパーク水俣」(水俣市)、牛深港(天草市)の3か所での同時開催となりました。エコパーク水俣の特設会場では、海上歓迎として、この地域で漁に使われる「うたせ船」や、刺し網漁船など15隻がパレードを行い、放流行事では、天皇・皇后両陛下がカサゴ、ヒラメの稚魚を放流されました。



熊本県のキャラクター「くまもん」も登場し盛り上げました。(写真提供：JF全漁連)

淡路市で「かいぼり」はじまる! ~10月には2つの池を作業~

(一財)兵庫県水産振興基金



放水のため長いホースを引っ張る漁業者の皆さん



用水路では、池からの泥を流しつつ、魚を救出!

「かいぼり」はその後、洲本市でも予定されていることに加え、学校教育の場にも取り入れられるなど、淡路島全体の取り組みとして大きく発展しつつあり、今後の活動に期待が集まっています。

ぶりの「かいぼり」とのことでした。水が抜かれ、魚も前日までに他の池に移すなど準備



JF森(森義政組合長)とJF飯屋(岡田光司組合長)が農業者と協働し、平成20年度からはじめている「かいぼり」。ため池の栄養を海へ流すことはもちろん、貯水量増加や堰堤のメンテナンスのほか、外来魚の駆除も行え、農業のみならず防災や環境面の効果でも注目されています。今年も、10月9日(水)に淡路市釜口の「奈良町池」で行った後、10月24日(木)は同市久留麻の「新池」で行われ、JF森・飯屋の漁業者や地元農業者ら約70名が作業に汗を流しました。関係者によると24日の新池は、約30年

された池の底には約2mもの泥が堆積しており、漁業者を中心にポンプでの放水と合わせて、ジョレンなどの道具を使った手作業で、丁寧に池や用水路の泥を流していました。また、この日は近くの学習小学校、浦小学校の3年生が「かいぼり」の取り組みを学ぶため、見学に訪れました。池の傍には、前日までに獲れた池のコイ、フナなどが水槽に入れられており、網ですくったりして楽しみながら学んでもらえたようです。

森正安氏(JF森)は、「この地区から始まった協働によるかいぼりが島内に広がっていることは嬉しいことだ。今年も2つの池で「かいぼり」により多くのウナギが確認された。海と山を繋げる取り組みとして、ウナギが遡上しやすい形状の余口(よぐち)洪水吐の意図にするなど、ため池をもっと有効に活用することできれば」と話されました。



水槽の魚をすくうのに希望者が多数!
(中央は浦川地区ため池・里海保全協議会 谷会長)



2mもの泥が堆積していました

淡路市立富島小学校で「おさかな教室」開催 ～齋藤講師の体験記～

兵庫県漁業士会

9月11日（水）、兵庫県漁業士会（魚住 幸市会長・JF育波浦）が、淡路市立富島小学校にて4～6年生30名を対象とした「おさかな教室」を開催し

ました。この活動は、同会の魚食普及活動の一環で淡路市、JF兵庫漁連、県立水産技術センター、洲本農林水産振興事務所が協力して、5年前から淡路市内の小学校を



講師の手元に注目が集まります

※以下は講師役の
 洲本農林水産
 振興事務所水産
 課 齋藤 公司さ
 んのレポートで
 す。

対象に行っている
 ものです。淡路の
 漁業に関する講義
 と干しダコ作りを
 通して、地元漁業
 や水産物について
 学び、自分達の手
 で実際に生き物を
 調理して食べるこ
 とで、水産物のお
 いしさを知るとも
 に、「食べる」こ
 とについて考える
 ことを目的として
 開催しています。



みんな、隣りの出来栄が気になります…

おさかな教室の中でも、毎年子供た
 ちに強烈な印象を与えているのが干し
 ダコ作りで、今年はJF富島に地元の
 タコを用意していただき、私が講師を
 務めました。もちろん生きたタコを調
 理するのですが、タコの活きの良さ、
 力強さに子供たちは笑ったり、格闘し
 たり、怖がって離れてしまったりと
 様々な表情を見せてくれます。このタ
 コをうまくしめるのが講師の見せ場な
 のですが、タコが元気すぎるのか私の
 元気が足りなかったのか、何ともシマ
 らない出だしとなりました。そんな講
 師の説明を聞きながら、四苦八苦しつ
 つも一所懸命に取り組む子供たちの様
 子を見てみると、こちらも教え甲斐を
 感じて嬉しくなりました。事前練習で
 は苦闘していた先生方も、当日はしっ
 かり子供たちを補助して下さり、無事

終えることができました。その後、昼
 食に地元の食材を使ったたこ飯やわか
 めスープなどが振る舞われ、子供たち
 は「待ってました」とおいしそうに食
 べていました。完成した干しダコを満
 足げに見つめたり、隣りと見比べたり
 と、嬉しそうな表情の子供たちが今で
 もとても印象深く残っています。

新聞やテレビでも多数紹介してい
 だき、漁業士会や私たちの普及活動を
 広く知ってもらうよい機会となり、あ
 りがたく思います。このような活動で、
 子供に限らず多くの人が、自分たちで
 水産物を調理し、味わうことを通して、
 「あ、これおいしかったな」、「お、こ
 れ食べてみよう」、そんな気持ちにさ
 さやかな後押しをできれば良いと思
 います。いつつ、これからも普及活動に努めて
 いきます。



「食べる」ことについてしっかりと学びました！

2つの大学イベントで 兵庫県産水産物をPR! ～大学生から好評を博す～

摂津播磨地区 漁協青壮年部連合会

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

(大角 生馬会長・JF坊勢)以下、
摂播漁青連)は、今秋、2つの大学の
イベントに出店し、県内産水産加
工品の販売をとおして、水産物のP
Rを行い、好評を博しました。

10月22日(火)、西宮市にある関
西学院大学において開催された「関
学生協祭」では、「明石だこコロッケ」
と「ネブトのから揚げ」を販売しま
した。今回の参加は、拓水7月号(No
68)で紹介したとおり、摂播漁青
連が、同大文学部 田和 正孝教授と
そのゼミ生との交流を持った際、大
学生協の職員と繋がりが出来たこと
から実現したものです。イ
ベント当日は、開店当初か
ら多くの学生が店を訪れ、

田和教授にもご来店頂きました

摂播漁青連のメンバーは商品の販売とともに、兵庫の海や魚について話をし、学生らは興味深く聞き入っていました。また、今が旬のアシアカエビ、兵庫産焼き海苔等を使用し、同大学生協と共同開発したこの日だけの「LOVE SEA 丼」を食堂で販売したところ、またたく間に完売し、次回企画への期待が膨らみました。

11月3日(日)は、神戸学院大学(神戸市)の大学祭に出店し、同じく「明石だこコロッケ」、「ネブトのから揚げ」の販売を行いました。当日はあいにくの天気でしたが、摂播漁青連メンバーのPRにより、学生のほか、周辺の住民などの一般客からも来店。購入者からは「おいしい」との声が続々と寄せられ、改めて県産水産物の良さをPR出来たようです。また、摂播漁青連メンバーは、両日とも「ガザミふやそう会」の活動の説明し、理解を得るとともに同会員の募集を行いました。

大角会長は「交流の輪が広がったことは嬉しい。今後も様々な方面との繋がりをもち、魚食普及活動を推進していきたい」と話されました。



テントの前にはたくさんの学生が集まりました



試食でも「おいしい!」と好評でした



神戸学院大学での様子

兵庫県・ワシントン州友好提携50周年記念事業

「兵庫県民交流団」ワシントン州を訪問 水産団体からも3名が参加

(一財)兵庫県水産振興基金

兵庫県とワシントン州の友好提携は、昭和38年10月、当時の金井元彦知事とアル・ロッセリーニ知事の調印締結に始まり、今年、50周年を迎えました。この節目の年を記念して、去る8月19日、ワシントン州で両県州から関係者約500人が出席し、共同声明調印式や記念レセプションが催されました。本県からは、井戸敏三知事を総団長に各界関係者ら全15団、約250名



調印式を終えて、井戸知事との記念撮影

が参加し同州民とともに50周年を祝いました。県事務局から、広範な県民の参画によるワシントン州民との草の根交流を通じて両県州の絆を一層深めようとの呼びかけで、いるいるな分野から代表団の派遣があり、当基金も、(公財)兵庫県国際交流協会への要請を受けて、兵庫県民交流団(団長・戸田氏懿)の一員として理事3名が参加しました。県民交流団は、8月17日(土)から24日(土)までの8日間、ワシントン州での記念事業や州民との会食会など草の根交流をはじめ、世界遺産グラウンドキヤニオン観光など貴重な体験をしてきました。

友好提携50周年記念共同声明調印式は、19日午後、州都オリンピアの州議事堂上院議場で行われた。式辞で、インズリー州知事は、米国の州と日本の県の友好提携では最も歴史が長い関係を喜びとして「両県州は」文化・教育・商業など相互協力で恩恵を得ている。当時のロッセリーニ知事と金井知事は先見の明があった」と挨拶された。また、井戸知事は「18年前の阪神淡路大震災、12年前の米国同時多発テロ、2年前の東日本大震災など、大きな苦難に直面した両県州民は、お互いを支え合い、励まし合い、勇気づけ合ってきた。



シアトルの漁港で地元漁師の話を聞く

た。その中で育まれてきた心と心の絆は、まさに両県州を結ぶ架け橋だ。今日の調印式を契機に、さらに友好の絆を深めたい」と述べ、インズリー知事と固い握手を交わしました。また、式典の中で、貝原俊民前知事にワシントン州名誉市民賞がインズリー知事から授与されるなど、終始、厳粛にして和やかな記念式典となりました。議事堂前広場で行われた記念レセプションは、ポリュームたっぷりのステーキやカリフォルニア巻寿司、ケーキ、ワインなどでもてなされ、両県州民の草の根交流は言葉が通じないところはポディアクションでカパーするなど、温かく思い出に残る交歓会となりました。

調印式など公式行事を終えた県民交流団一行23名は、20日(火)、空路、アリゾナ州に移動し世界遺産グランドキャニオン、パワースポットと癒しの街で人気のセドナの観光へ向かいました。砂漠と赤茶に切り立つ山、深く切れ込む大峡谷、今にも谷間からジョンウエインがインディアンに追われる駅

馬車とともに走り出てくるのでは?と錯覚しそうな大自然を目の当たりに、日々感動のみ。そして22日、団員各位の日頃の精進の賜物か、旅は天気に恵まれ故障者もなく順調に感謝しながら、最終地ラスベガスに向かうも、バスがエンジントラブル。日没と砂漠の真っ只中に不安を感じつつ、救援バスを待つ。このトラブルで、旅の最後はラスベガスで…の期待(?)はガッカリ消沈。午前4時ホテル出発で滞在時間は僅か4時間、ベットすら使用しなかった人もあり、最後は慌ただしく帰国の途につくことになりました。

なお、今回、基金から参加したのは中川照央理事(JF室津)、前田若男理事(JF福良)、戸田氏懿専務理事(基金)の3名。シアトルで、他の団員と別行動し北米最大のシアトル漁港見学、マルハ・ニチロ現地法人訪問、東京にも劣らないという寿司店「シロー」などを訪れ、資源保護優先のライセンス制度や水産動向なども限られた時間でしたが調査をしてきました。



シアトルのフィッシュマーケットにて

大輪田塾だより

平成25年度 大輪田塾修了式ならびに入塾式開催

（入塾生は過去最多の9名）

（一財）兵庫県水産振興基金



修了生の記念撮影
(前列左から：播磨組合長、山崎さん、山田塾長、三浦局長、東根さん、上田さん)



「幅広い視野を持った将来の水産業界をリードしていく人材育成」を目標に行っている同塾は、毎年、この時期に修了・入塾式が執り行われています。今年10月22日（火）、兵庫県水産会館にお



修了証書を手にする福島さん（前列右）

いて「大輪田塾修了式ならびに入塾式」が行われ、本年度は7期生4名が修了するとともに、新入生（9期生）として過去最多の9名が入塾しました。
山田 隆義塾長（JF兵庫漁連会長）、県農林水産局 三浦 恒夫局長をはじめ、同塾運営委員、県・系統役員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ山田塾長から修了証書を手渡され、「決意の言葉」を述べました。その後、8期生 魚裕之さん（JF一宮町）からの「送る言葉」を受けた7期生は決意を新たに卒業しました。
なお、体調不良のため式を欠席された福島 寛之さん（JF五色町）には、11月1日（金）JF五色町事務所において戸田 氏謨事務局長（当基金専務）より本人に手渡されました。
続いて行われた入塾式では、新入生代表の松本 久進さん（JF西二見）が「誓いの言葉」を述べ、8期生 赤松 克司さん（JF但馬）から歓迎の言葉が贈られました。
式終了後には、関西学院大学文学部 田和 正孝教

修了生の紹介

氏名	所属	漁業種類
上田 章太	JF坊勢	漁協職員
東根 大介	JF淡路島岩屋	船曳網
福島 寛之	JF五色町	サワラ流し網、タコつぼ
山崎 栄祐	JF五色町	漁協職員

入塾生の紹介

氏名	所属	漁業種類
松本 久進	JF西二見	ノリ養殖・一本釣り
竹中 太作	JF坊勢	小型底曳網
中田 耕司	JF津名	小型底曳網
福谷 信之	JF津名	小型底曳網
相田 欽司	JF仮屋	小型底曳網
清水 将矢	JF福良	漁協職員
中村 吉志	JF浜坂	漁協職員
山田 純	JFぎょさい兵庫	団体職員
井田 寛	兵庫県内海漁船保険組合	団体職員

（敬称略・順不同）



入塾生の記念撮影

前列左から：福谷さん、中田さん、山田塾長、三浦局長、竹中さん、松本さん

後列左から：相田さん（4番目）、井田さん（6番目）、中村さん（8番目）、清水さん（10番目）、山田さん（12番目）

授による記念講演「挑戦する大輪田塾」が行われ、塾生は当塾設立の経緯や取り組んできた内容、今後の展開などを聞き、気持ちを新たにしたいようです。
7期生のこれからの活躍を祈念するとともに、9期生の頑張りに期待します。

「神戸プレジール」で 行われたEU輸出に 向けての調印式

EU（欧州連合）全域に販路をもつモノコ食肉卸商社「ジラウディ社」のエルミーニョ会長とリカルド社長が、このほど全農兵庫県本部直営レストラン「神戸プレジール」に来店し、神戸ビーフのEU輸出に向けて「神戸肉流通推進協議会」（事務局：全農兵庫県本部）への加盟に調印しました。

神戸ビーフを取り扱うには、畜産農家・販売業者などで構成される神戸肉流通推進協議会への加盟が必要です。今回の加盟により、同社はEUの輸出手続きが完了次第、EU全域での神戸ビーフの販売が可能となります。

調印後は、加盟店の印である神戸ビーフの盾が、同協議会の平井副会長からエルミーニョ会長に手渡されたほか、店内で神戸ビーフのサーロイン・フィレ・イチボ・ミスジ・ラムシンの各部位の鉄板焼き特別料理を味わい、「これまで食べたどの肉よりもおいしい。この神戸ビーフのおいしさをEU全域に伝えたい」と話されました。

昨年2月以降、神戸ビーフはマカオ・香港・タイ・アメリカ・シンガポールの5カ国に輸出されており、今後、EUに進出することで、さらにブランド価値が高まることが期待されています。



神戸ビーフの盾を手に記念撮影
(リカルド社長、エルミーニョ会長、平井副会長（左から）)

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

兵協連 「東日本被災地支援活動」 で交流

兵庫県生活協同組合連合会の会員生協の尼崎医療生協と神戸医療生協は、発災以来、宮城県山元町を中心に継続的な生活支援活動、地域コミュニティの復旧、復興をめざして活動しています。兵庫県生協連では、9月20日（金）～21日（土）、山元町仮設住宅での支援活動に、コープこうべ、宝塚医療生協、姫路市民共済生協から各1名と事務局として兵協連三宅康平専務理事の4名が参加しました。

20日夜、出発。尼崎医療生協が職員を派遣している「みやぎ虹の架け橋復興支援センター」に到着したあと、常駐されている尼崎医療生協の職員の方と打ち合せを行ない、被災地支援の取り組みDVDを鑑賞し、これまでの支援活動について学びました。

翌朝、山元町の旧JR山下駅、中浜小学校を視察。大阪きづがわ医療福祉生協の支援活動チームと合流し、各仮設住宅での健康チェック・体操・茶話会で活動しました。午後は山元町花釜地区の被災者宅に約40人が集合。みやぎ県南医療生協の「男の料理教室」に合流し、焼き秋刀魚などをいただきながら、震災当時のお話を伺いました。その後、仙台市若林区荒浜、名取市閑上を視察し帰途につきました。参加者からは、「浸水や塩害という被害もあり、現地の方が津波の被害を“水害”と表現されていたことが印象に残りました」「今まで気づかなかった問題や現状が分かり、これからの情報にも敏感になれる。これが“現地へ行く”意義だと思う」「『遠いところから来ていただき本当にありがたい』と言っていた、交流も十分支援になるのだと感じました」など、息の長い支援活動を継続することの大切さを実感しました。



◀健康チェックの
あとはミニゲーム
を楽しみました



みやぎ県南医療生協の方々と一緒に活動しました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

百種菜園 (Ⅲ)

◆菜園での野菜作りは、子育ての延長のようなものだ。子供と野菜を同じレベルで考えるのは可笑しいが、その難儀さは子育てに通じる所がある。放任しても過保護にしても、余り良い結果にならず、健全に野菜を育てるには、小まめな世話が必要なのだ。野菜の性質に合わせて施肥には、先人から大いに苦勞している。キャベツやレタスは超のつくほど窒素・リン酸・加里を多量に施して良いが、サツマイモは窒素が多いと駄目で、窒素を少なく加里を増やす。豆類も肥料過多では花を着けるのを忘れて仕舞う。こうした肥加減は、経験を積み重ねれば把握が難しい。出来得るかぎり無農薬で育てるのを基本としている。

◆無農薬を前提としてはいるが、病害や大量発生した害虫には薬品の力が必要になる。タマネギはべト病に見舞われるし、大豆に来るカメムシにも泣かされる。病気に罹った株は早めの廃棄がいいが、植えた殆どが罹患すればお手上げで収穫を諦めるしかない。病株を見つけたら素早く対応、殺菌剤と殺虫剤を混合し展着剤を少量加えて効果を上げる。手段を講じて天命を待つ心になる。種蒔きの時期さえ大きく外さなければ、それなりの成果が得られる。多く収穫したいならば、養分補給のため、追肥や土寄せ作業を怠らぬことが大切である。

◆百種類のうち、南国生まれの野菜も多い。「食用ホオズキ」は寒くなる直前に花が咲き、霜に遭って大抵は未熟な果実で食べずに終わる。枯らして栽培を諦めた種類も多いが、タネ採取のため工夫する楽しみはある。「ヤーコン」の故郷は南米アンデス高地であるが作り易く、サツマイモ大の塊根が鈴なりになる。土色の塊根は外観が悪く野暮ったく、蒸しても焼いても不味く当初は捨て余した。何故かと調べたら、水分が多くデンプンを殆ど含まぬとあり、成分のフラクトオリゴ糖や食物繊維が多くダイエツト向き野菜だという。生でサラダ・油炒めが良いと知る。アンデスでは栽培歴が古く、果物(梨の味)として利用するそうだ。

◆畑に草が生えるのは当然の姿で、常に除草の気構えが必要である。雑草と機嫌良く付き合うには、まず名前を覚え、花期がいつか、繁殖方法はどうか等、相手を熟知することだろう。これらは図鑑があれば直ぐにも判るが、敵を知ることは兵法でも最重要である。昨今はハマスゲ・コヒルガオ・セイヨウタンポポと格闘をしている。此れらを退散させ、悠々と野菜を育ててやりたいと思う。すくすく育つ野菜類を見守るのは、子供の成長を見てるよう実に楽しい。

「全国ご当地バーガーコンテスト」にニギスバーガーで出展

但馬水産事務所

JF但馬・JF浜坂、水産加工業者、商工会青年部員、観光業者、そしてJF兵庫漁連但馬支所、県但馬水産事務所、県但馬水産技術センターで構成される「たじまのさかな」新商品・新メニュー開発推進チームは、魚食普及活動の一環として鳥取県で開催された「とっとりバーガーフェスタ 2013 全国ご当地バーガーグランプリ」に出展し、ニギスバーガーこと「たじまに Kiss Meバーガー」の販売をしました。

10月13日(日)、14日(月)に行われた同フェスタには、全国各地から38チームが参加し、出展者の地域にちなんだ食材を使った美味しそうなおバーガーが並びました。審査は、地域PR活動等のプレゼンテーション審査と来場者の投票で行われ、上位10チームの他に地域PR賞等が授与されます。同チームは、来場者に水産業の現状を伝え、但馬産や兵庫県産水産物を使った食事メニューをPRしつつ、目標個数200個を上回る311個を販売しました。また、併せて販売したニギスカツも「おいしい」と好評を得ることが出来ました。

審査の結果、残念ながら受賞は逃しましたが、来場者に水産業の厳しい現状を知ってもらい、魚を使った食事に少しでも興味を持ってもらえたと思っています。

(兵庫県但馬水産事務所 水田 章)



目標達成に笑顔のスタッフの皆さん



ニギスの知名度アップに期待